

令和5年度特色ある学校づくり推進事業報告書

学校番号（42） 学校名 豊田市立浄水小学校

1 テーマ

共感・共生する心を育み、生き方を学ぶ体験的活動
～豊田特別支援学校と浄水北小学校との交流活動と縦割り異学年の交流を中心に～

2 ねらい

一人一人の児童が、互いの個性や違いを認め合い、高め合える人間関係づくりを目指し、心の教育と高め合う集団づくりの充実を図る。

全校で縦割り(わくわく)班を編制し、異年齢集団での遊びや行事などを通して、共に助け合い学び合う人間関係作りに努める。また、学区にある豊田特別支援学校と交流し、障がいのある友達と交流体験を重ね、相手を正しく理解し、問題を解決する工夫をする中で共生の心を培う。また、活動を振り返ることで、自分自身を見つめ、共に伸びていく気持ちをもたせていく。

これらの活動を支える基盤として、いじめや不登校児童を出さないために、相談活動を充実させ、早期発見・早期対応とともに継続した支援を行う。さらに、児童が安心して落ち着いた学校生活を送れるよう、校内の環境整備を、また、交流活動の様子をホームページ等で保護者や地域に広く紹介する。

3 活動内容

○豊田特別支援学校との交流(にこにこ交流)

全学年が、年間2回（前期1回、後期1回）、豊田特別支援学校の同学年の児童と継続して交流を行った。昨年度まではオンラインで交流をしていたが、今年度は代表児童が豊田特別支援学校へ行って直接交流する場を設け、その様子をオンラインでつなげた。（高学年のみ）2年生は、○×の学校クイズを行ったり、運動会で踊った「EXダンス」を披露したりした。6年生は、代表児童が豊田特別支援学校でボッチャの大会を行ったり、特別支援学校内を案内してもらったりして交流を深めた。

○浄水北小学校との交流（J S B交流）

今年度は、5年生が国際交流をテーマに浄水北小学校と交流を図った。外国語の授業とタイアップし、相手校のALTに日本の四季のよさを紹介するという取組を行った。

○縦割り異学年交流(わくわく班活動)

6年生のリーダーを中心に、月に1回「わくわくの日」を設定して、長い休み時間を利用して楽しく遊んだ。12月には「わくわくスペシャル」として、1時間を使って6年生が計画準備した遊びを楽しみ交流を深めた。年が明けてからは5年生がリーダーを引き継ぎ、6年生にアドバイスをもらいながらリーダーとしての準備を進めている。また、お世話になった6年生に感謝の気持ちを伝える会を企画したりプレゼン

トを作成したりしている。

○心の相談員の配置

通常の相談活動のほかに、校内はあとラウンジ「はあとルーム」登校の児童への支援を行い居場所づくりに努めた。

○校内整備員の配置

整備員の専門性を生かして、校内の環境整備を積極的に行った。

○校内環境整備の充実

地域のボランティアの皆さんと一緒に、卒業式に飾るサクラソウとパンジーの苗植えや腐葉土作りを行った。さらに、清掃活動時の学年園や学校園の整備にも力を入れた。

4 成果と課題

(1)成果

- ・にこにこ交流やわくわく班活動を通して、互いの個性や違いを認め合ったり、相手を思いやったりする気持ちが育った。保護者アンケートからも、にこにこ交流やわくわく班活動はよい取組なので今後も続けてほしいという意見が寄せられ、今後も継続していく予定である。
- ・心の相談員の配置により、児童が安心して相談することができ、児童の心の悩みの早期発見・早期対応ができ、適切な支援を行うことができた。また、後期から校内はあとラウンジ「はあとルーム」登校の児童に対する支援も行うことができ、児童が安心して登校できるようになった。
- ・校内整備員の配置により、校内の環境整備を行うことができ、児童が安全に落ち着いて学校生活を送ることができた。今年度は生活委員会と連携し「ライトウォーク週間（右側歩行）」のために、階段の中央に白テープを貼る作業なども行った。

(2)課題

- ・わくわく班活動については、長い休み時間は活動時間が短く慌ただしくなるのでわくわく感が足りないという反省が出た。来年度に向けては、活動時間の確保と活動内容の充実を図る予定である。
- ・JSB 交流では、3校の情報交換や連携の仕方を全教員で共通理解を図り、多様なアイデアを生かした交流実践を積み上げていく必要がある。

5 保護者・地域への情報発信の取組実績

- ・学校ホームページには、どの学年もほぼ毎日授業の様子やそれぞれの学年の交流の様子などを更新している。その中で、本事業の活動の様子もタイムリーに紹介し、情報発信を行った。
- ・学校だよりでは、毎週発行して各学年の取組や全校行事を紹介することができた。また、地域にも回覧し、地域の方にも情報を発信することができた。